



L コマンド

この章では、L で始まる Cisco NX-OS Open Shortest Path First (OSPF) コマンドについて説明します。

log-adjacency-changes (OSPF)

Open Shortest Path First (OSPF) ネイバーの状態が変更された場合にルータが `syslog` メッセージを送信するように設定するには、**log-adjacency-changes** コマンドを使用します。この機能をオフにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

log adjacency changes [detail]

構文の説明	detail (任意) すべての隣接状態の変更を表示します (DOWN、INIT、2WAY、EXSTART、EXCHANGE、LOADING、FULL)。
-------	--

コマンド デフォルト OSPF ネイバーの状態が変更された場合、ルータはシステム メッセージを送信します。

コマンド モード ルータ コンフィギュレーション モード
ルータ VRF コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(3)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン OSPF ネイバー関係の状態の高レベルの変更を表示するには、**log-adjacency-changes** コマンドを使用します。このコマンドは、デフォルトでオンになりますが、**detail** キーワードを使用しない場合、レポートされるのは up/down (full/down) イベントだけです。

このコマンドには、LAN Base Services ライセンスが必要です。

例 次に、OSPF ネイバーの状態変更時にシステム メッセージを送信するようにルータを設定する例を示します。

```
switch(config)# router ospf 209
switch(config-router)# log-adjacency-changes detail
switch(config-router)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	copy running-config startup-config	このコンフィギュレーション変更をスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存します。
	show ip ospf	OSPF 情報を表示します。

log-adjacency-changes (OSPFv3)

Open Shortest Path First version 3 (OSPFv3) ネイバーの状態が変更された場合にルータがシステムメッセージを送信するように設定するには、**log-adjacency-changes** コマンドを使用します。この機能をオフにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

log adjacency changes [detail]

構文の説明

detail (任意) すべての隣接状態の変更を表示します (DOWN、INIT、2WAY、EXSTART、EXCHANGE、LOADING、FULL)。

デフォルト

OSPFv3 ネイバーの状態が変更された場合、ルータはシステムメッセージを送信します。

コマンドモード

ルータ コンフィギュレーション
ルータ VRF コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.2(1)N1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

OSPFv3 ネイバー関係の状態の高レベルの変更を表示するには、**log-adjacency-changes** コマンドを使用します。このコマンドは、デフォルトでオンになりますが、**detail** キーワードを使用しない場合、レポートされるのは up/down (full/down) イベントだけです。

このコマンドには、Enterprise Services ライセンスが必要です。

例

OSPFv3 ネイバーの状態変更時にルータがシステムメッセージを送信するように設定する例を示します。

```
switch(config)# router ospfv3 209
switch(config-router)# log-adjacency-changes detail
```

